

人材確保へ進む働き方改革

ICT活用で省力化

人的ミス防止 生産性をアップ

中島工務店 (中津川市)

国土交通省は、建設産業の安全性の向上や身体的な負の人材不足解消には「担い手の処遇改善」、「働き方改革」、「生産性向上」を一体として進めていくことが重要だとしている。その背景には、建設産業に根づく3K(きつい・汚い・危険)のイメージが挙げられ、これを払拭するためにも、ICT(情報通信技術)の活用だ。ICT建機やドローンなどを活用すること

安全性の向上や身体的な負担軽減は重要なポイントだ。さらに、長時間労働を改善し、働き方改革を推進するために、生産性の向上は急務といえる。

ローンなどを活用することで、これまで熟練の技術が必要だった業務が若手でも可能になり、人的なミスを防いで正確な作業ができるようになるほか、危険な業務も減ることが期待される。

土木工事から公共建築工事、住宅や社建建築まで幅広い事業を展開する中島工務店(中津川市加子母)では、約6年前から地上レーザースキャナによる3次元測量や、建設機械にセンサーを取り付けたICT建機システムなどを導入している。

濃飛横断自動車道の現場では、地面を掘削するバックホウのバケットにセンサーを取り付け、リアルタイムで計測した位置情報を運転席のモニターに送って掘削状況を確認するマシンガイダンスシステムを採用。従来は、一定の掘削ができた段階で、測量補助員が施工箇所に立ち入り、進捗の確認や正しい位置を示す丁張作業を行っていた。しかし、同システムはオペレーターがモニターを見ながら作業ができ、測量作業が不要となった。オペレーターも途中で機械を降りて、掘削勾配や丁張を確認していたが、その手間も軽

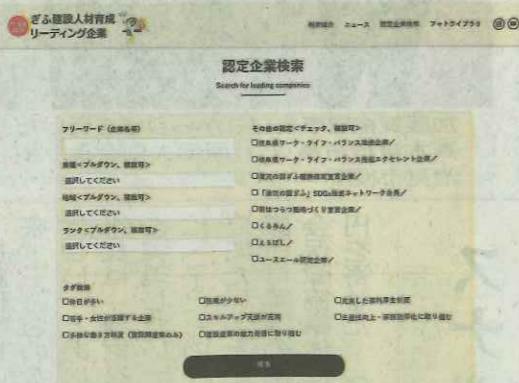
ICT施工に取り組む中島工務店の鳴海雅彦常務(右)と土木部の中川光太郎課長(左)が中津川市加子母、濃飛横断自動車道(仮称)濃飛3号橋橋梁下部工事現場事務所



センサーでバケットの位置を把握して、正確な掘削を行うバックホウと運転席に設置されたモニターで掘削勾配を確認。中津川市加子母、濃飛横断自動車道(仮称)濃飛3号橋橋梁下部工事現場

岐阜県では建設産業の担い手確保・育成対策として、2017年に「ぎふ建設人材育成リーディング企業認定制度」を創設。労働環境の改善や人材育成などに積極的に取り組む宣言を行い、特に優秀な取り組みをしている企業をゴールド・シルバー・ブロンズの3ランクで認定している。現在、300を超えるぎふ建設人材育成リーディング企業を知ってもらうため、県は各社の取り組みや仕事内容を紹介するホームページ(HP)を制作した。さらに今年9月には、就職活動を控えた学生や転職を考える人により充実した情報を伝えられ

ぎふ建設人材育成リーディング企業ホームページをリニューアル



リニューアルされたぎふ建設人材育成リーディング企業のホームページ

検査

若手・女性が魅力づくり

岐阜県は、11月、若手・女性が魅力づくりを推進する。県内では、11月、若手・女性が魅力づくりを推進する。県内では、11月、若手・女性が魅力づくりを推進する。

